

ダニ媒介感染症について

人が野外作業や農作業、レジャー等でこれらのダニの生息場所に立ち入るとダニに咬まれることがあります。ウイルス等の病原体を保有するダニに咬まれることによって起こるさまざまな感染症のことをダニ媒介感染症といいます。特に春から秋にかけてはマダニの活動が盛んになる時期ですので、しっかりと対策することが重要です。

主なダニ媒介感染症としては重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などがあります。中でもSFTSはマダニからの感染が一般的ですが、SFTSを発症した犬や猫から人に感染した事例もあることから注意が必要です。犬や猫を飼育している場合はペットにダニがつかないようにダニ除け剤などで予防し、飼育している動物の健康

状態の変化に注意し、体調不良の際には動物病院を受診しましょう。

マダニ類の多くは、人や動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から長いもので10日間）吸血します。無理に引き抜こうとすると口器の一部が皮膚内に残ったり、ダニの体内や傷ついた皮膚から出る液体に病原体がいる可能性があるので、直接手でダニをつぶしたりしないようにしましょう。吸血中のマダニに気が付いた際は、皮膚科で除去してもらいましょう。また、野外でダニに咬まれた後、数日して発熱などの症状が認められた場合は、速やかに医療機関を受診するようにしましょう。

以下のリーフレットに野外で活動する際の予防のポイントを示しました。確認してマダニ類に刺咬されないように注意しましょう。

「ダニ」にご注意ください



山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう



春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、農作業など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

●肌の露出を少なくする

⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等

●長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する

⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中

●足を完全に覆う靴を履く

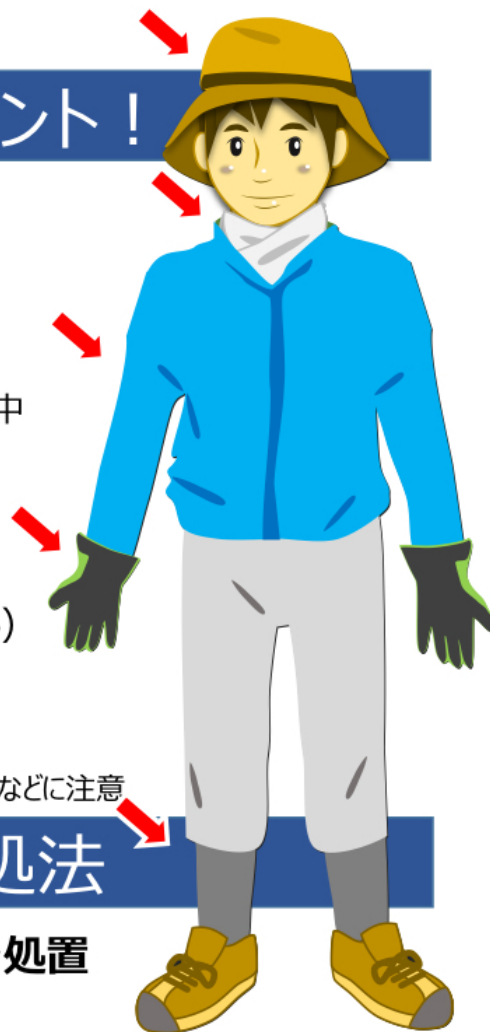
⇒サンダル等は避ける

●明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）

* 上着や作業着は家の中に持ち込まないようにしましょう

* 屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないか確認をしましょう

特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などに注意



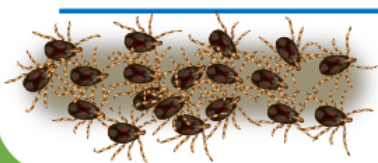
ダニに咬まれたときの対処法

●無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。

●マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各地域のダニ媒介感染症の状況については各自治体HPも参考にしてください

